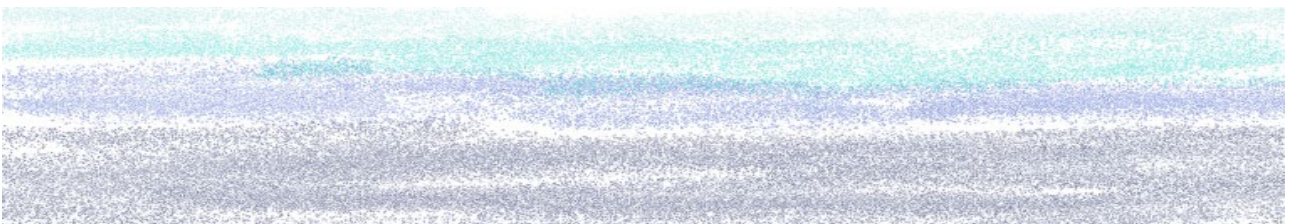


横浜未来の文化ビジョン 資料編

令和8年6月

横浜市



横浜未来の文化ビジョン 資料編

目次

1	市民モニター調査の結果概要	P2
	(1) 調査の目的	
	(2) 調査の概要	
	(3) 調査結果の概要	
2	横浜市のスポーツ・文化に関するイメージ等調査（抜粋）	P13
	(1) 調査の概要	
	(2) 調査結果（抜粋）	
3	意見交換会の結果概要	P15
	(1) 実施概要	
	(2) 主な御意見	
4	横浜未来の文化ビジョン（仮称）有識者懇談会	P19
	(1) 委員名簿	
	(2) 議事概要	
5	本市の文化に関する基礎データ	P22
	(1) 市による集計	
	(2) 政府統計等	
6	文化に関する関連法令	P25
7	横浜市文化行政史	P26

1 市民モニター調査の結果概要

(1) 調査の目的

「横浜未来の文化ビジョン」を策定するための基礎資料として、市民の文化に対する意識や文化芸術活動の実施状況についてモニター調査を実施し、次期計画策定に向けた方向性や指標設定の検討に必要なデータ収集を行うことを目的として実施しました。

(2) 調査の概要

調査対象：(株)ジャンボと連携するモニター保有者に登録をしている横浜市民

調査方法：WEB アンケートフォームにて実施

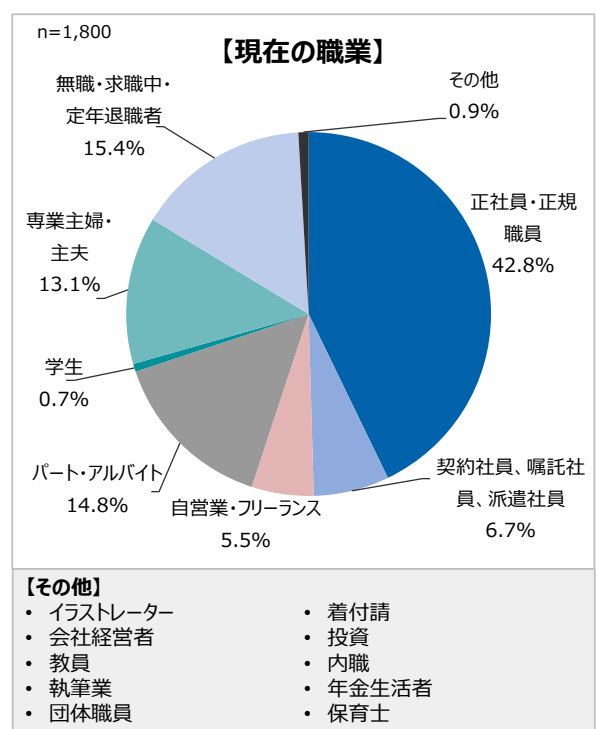
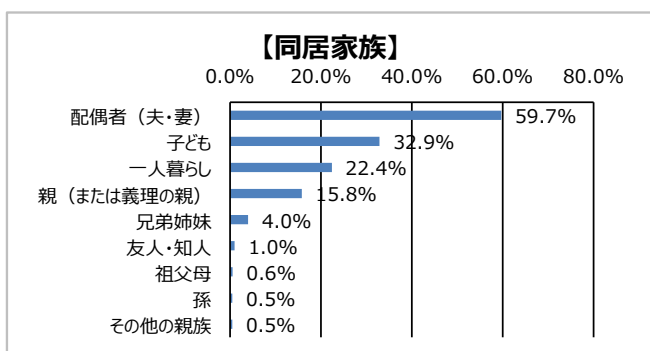
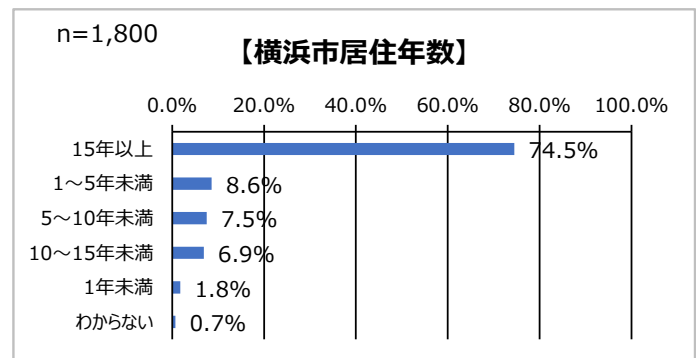
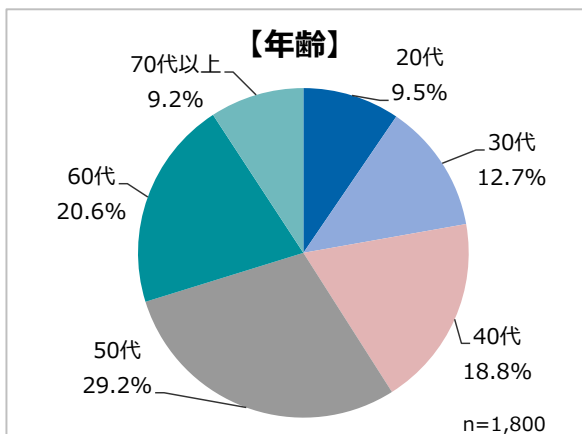
調査期間：2025（令和7）年7月1日～2025年7月16日

対象者数：横浜市18区より各区100人（男女50名ずつ）

有効回答数：1,800人

(3) 調査結果の概要

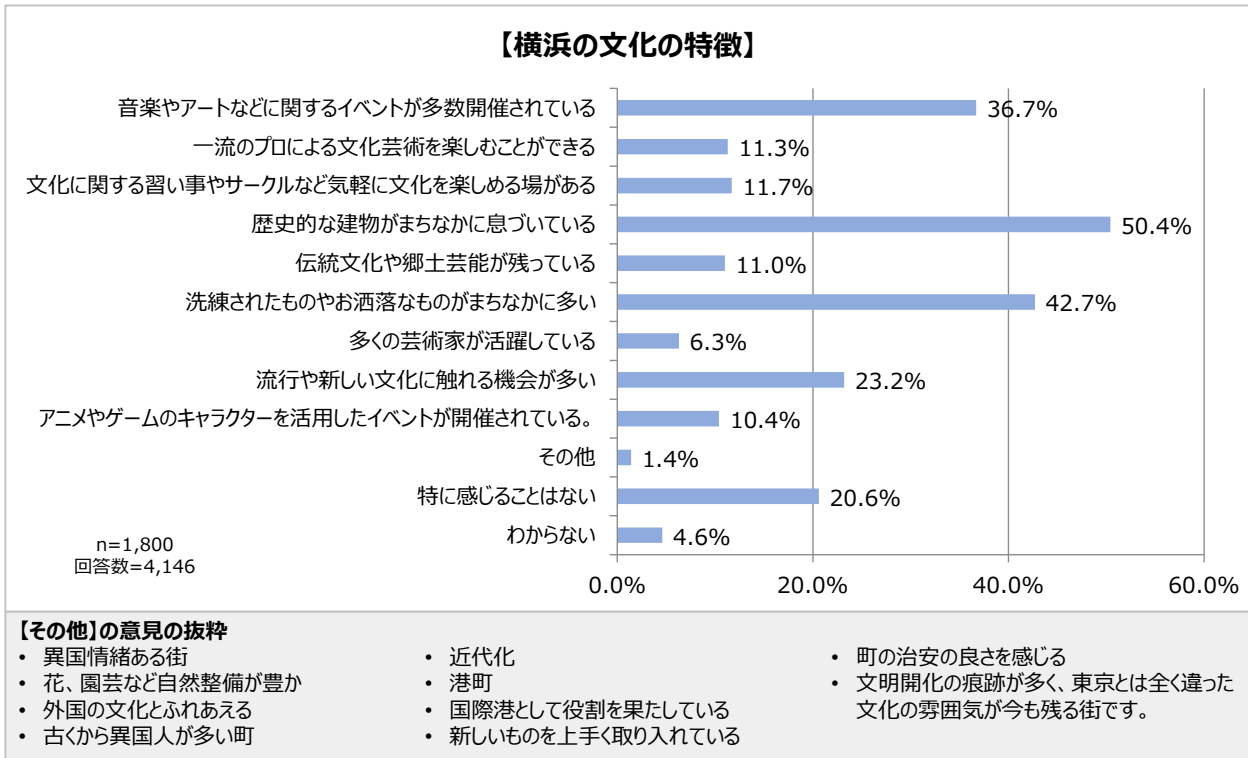
【回答者について】



【アンケート調査結果】

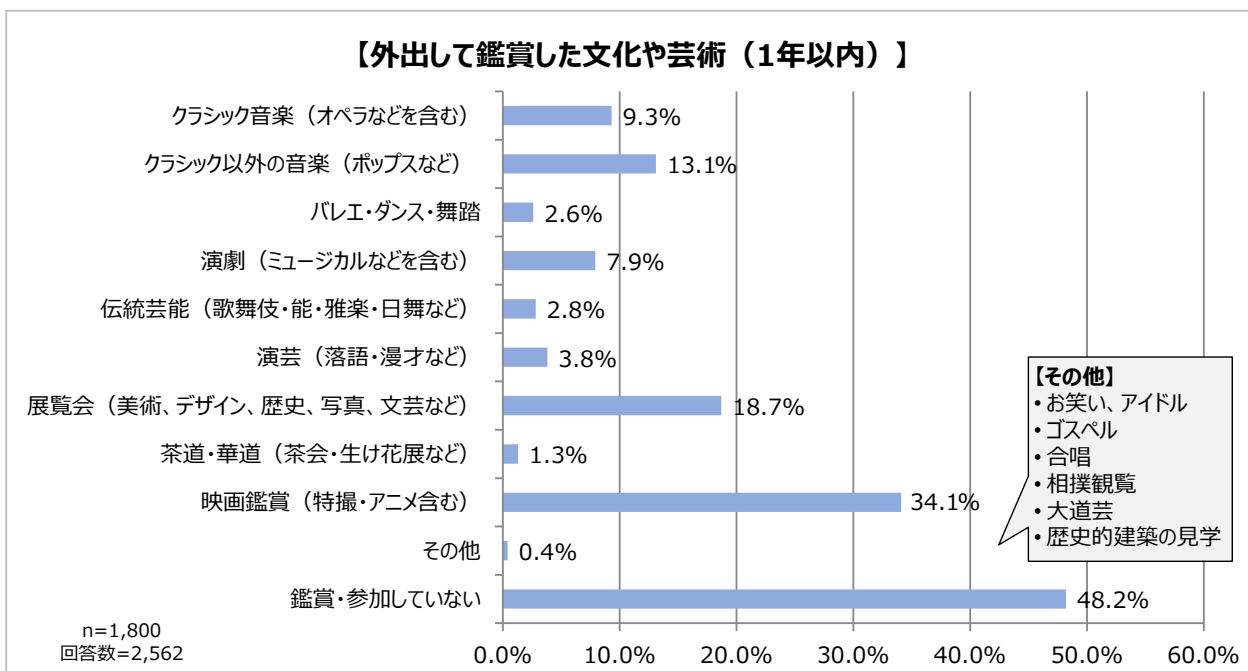
問1 横浜の文化の特徴と感ずるものはなんですか。(複数回答)

「歴史的な建物がまちなかに息づいている」(50.4%)「洗練されたものやお洒落なものがまちなかに多い」(42.7%)といった横浜の街の景観に関する回答が多くなっています。

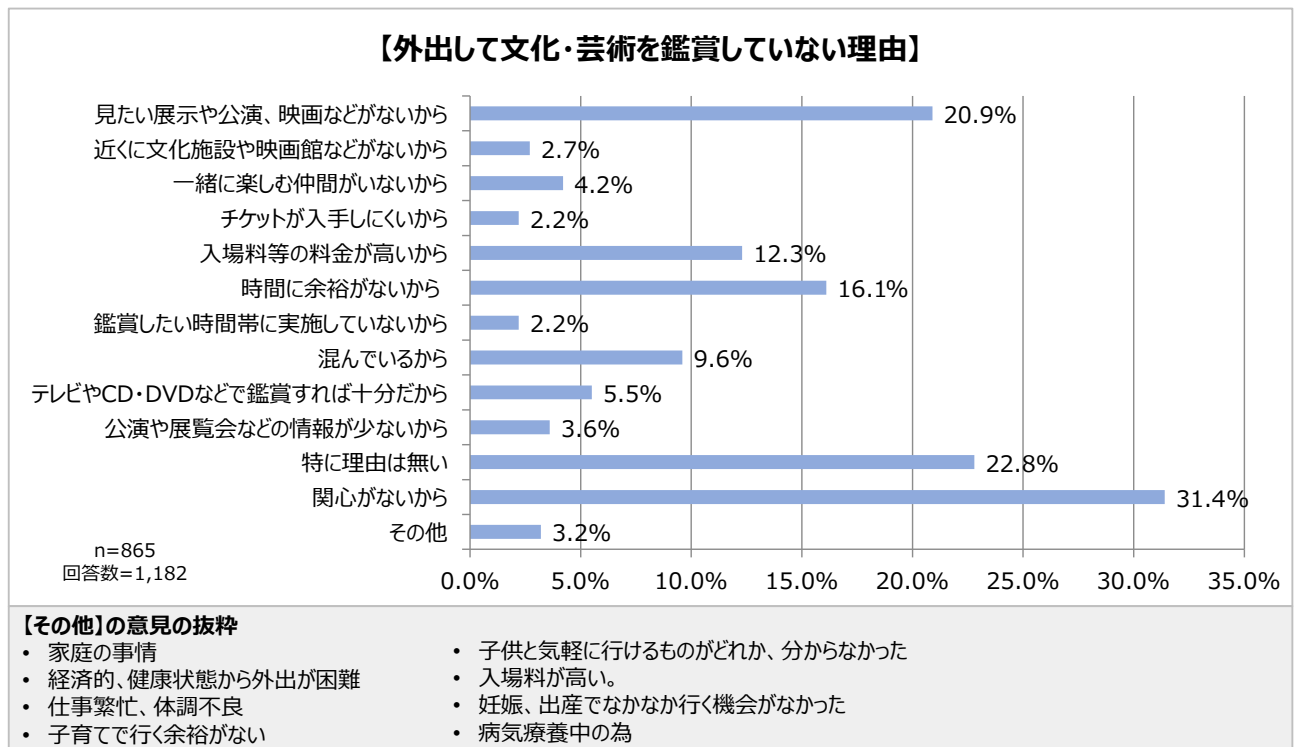


問2 あなたはこの1年間に、文化や芸術を外出して鑑賞しましたか。(複数回答)

「鑑賞・参加していない」の回答が最も多く48.2%となっています。鑑賞している文化・芸術では、「映画鑑賞(特撮・アニメ含む)」が34.1%、「展覧会(美術、デザイン、歴史、写真、文芸など)」が18.7%となっています。

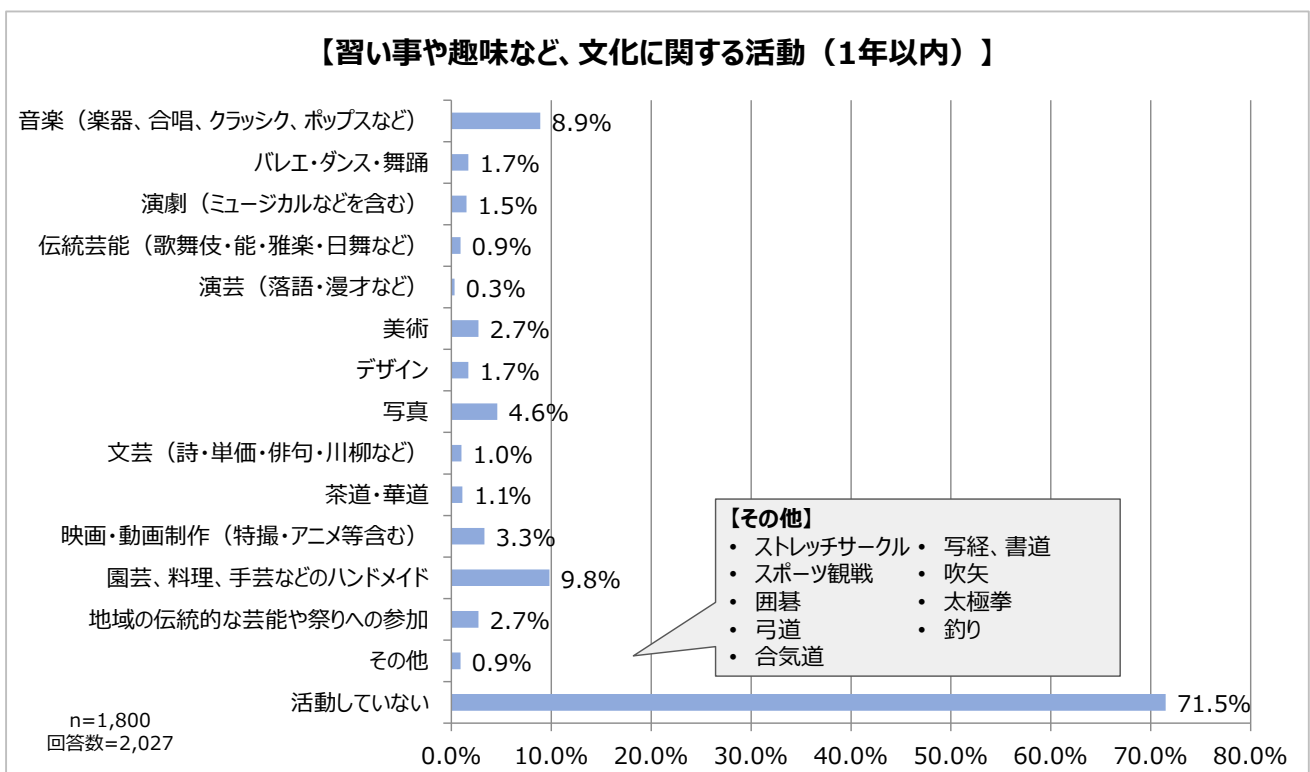


「鑑賞・参加していない」と回答した理由では、「関心がないから」が31.4%と最も多く、次いで「特に理由はない」が22.8%となっています。

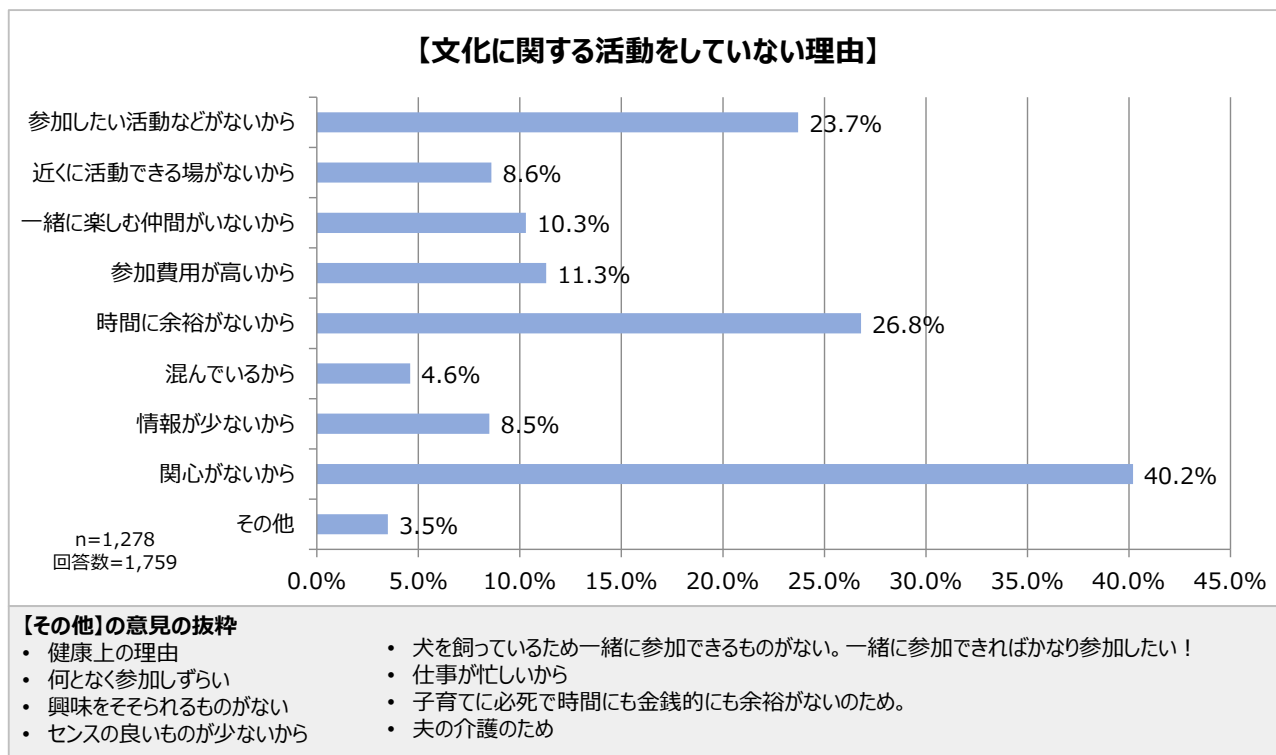


問3 あなた自身はこの1年間に、習い事や趣味など、文化に関する活動をしましたか。
(複数回答)

「活動していない」の回答が最も多く71.5%となっています。活動している内容では、「園芸、料理、手芸などのハンドメイド」が最も多く9.8%、「音楽（楽器、合唱、クラシック、ポップスなど）」が8.9%となっています。

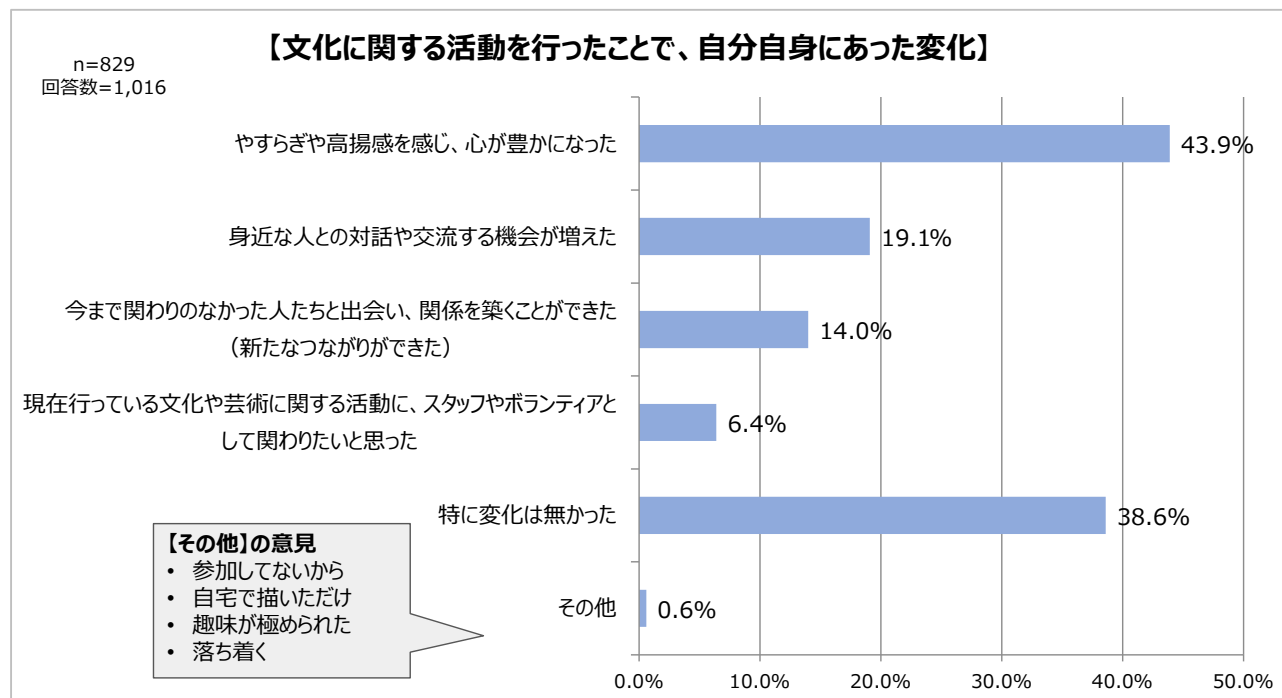


「活動していない」と回答した理由では、「関心がないから」が40.2%と最も多く、次いで「時間に余裕がないから」が26.8%となっています。



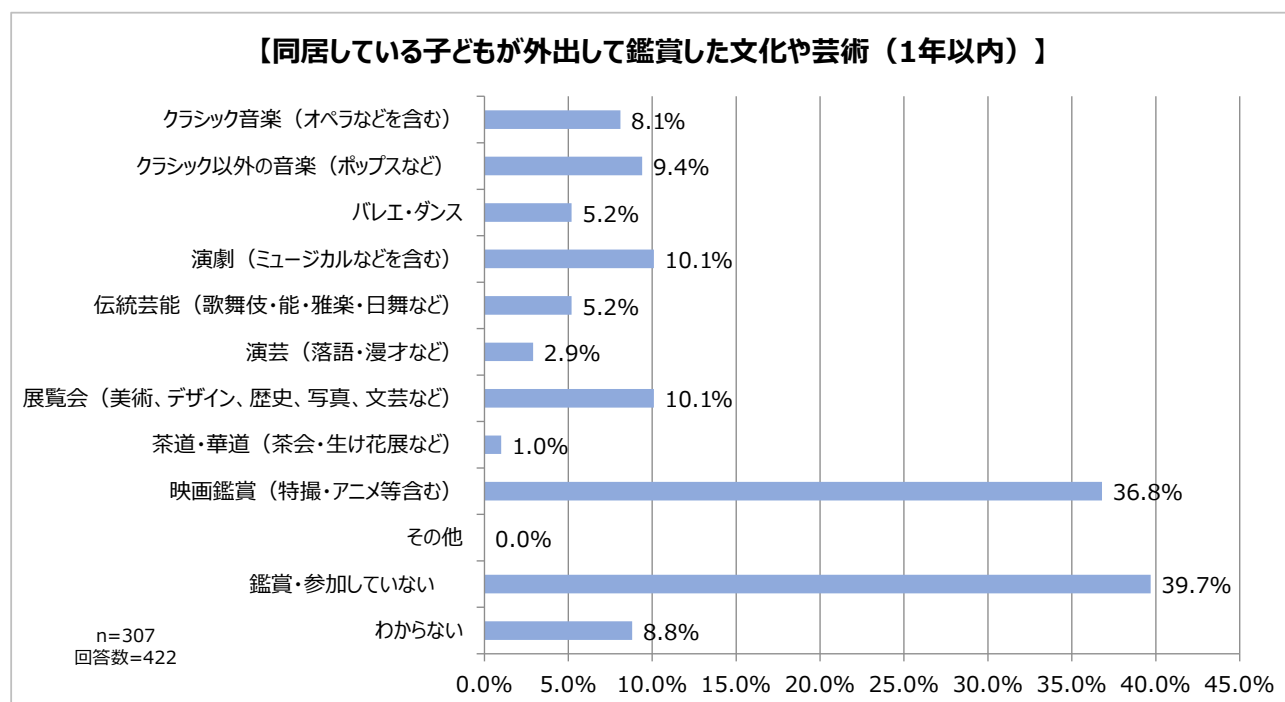
問4 文化や芸術に関する活動（鑑賞やイベント参加を含む）を実際に行ったことで、あなた自身にどのような変化がありましたか。（複数回答）

「やすらぎや高揚感を感じ、心が豊かになった」の回答が最も多く43.9%、次いで「特に変化がなかった」が38.6%となっています。



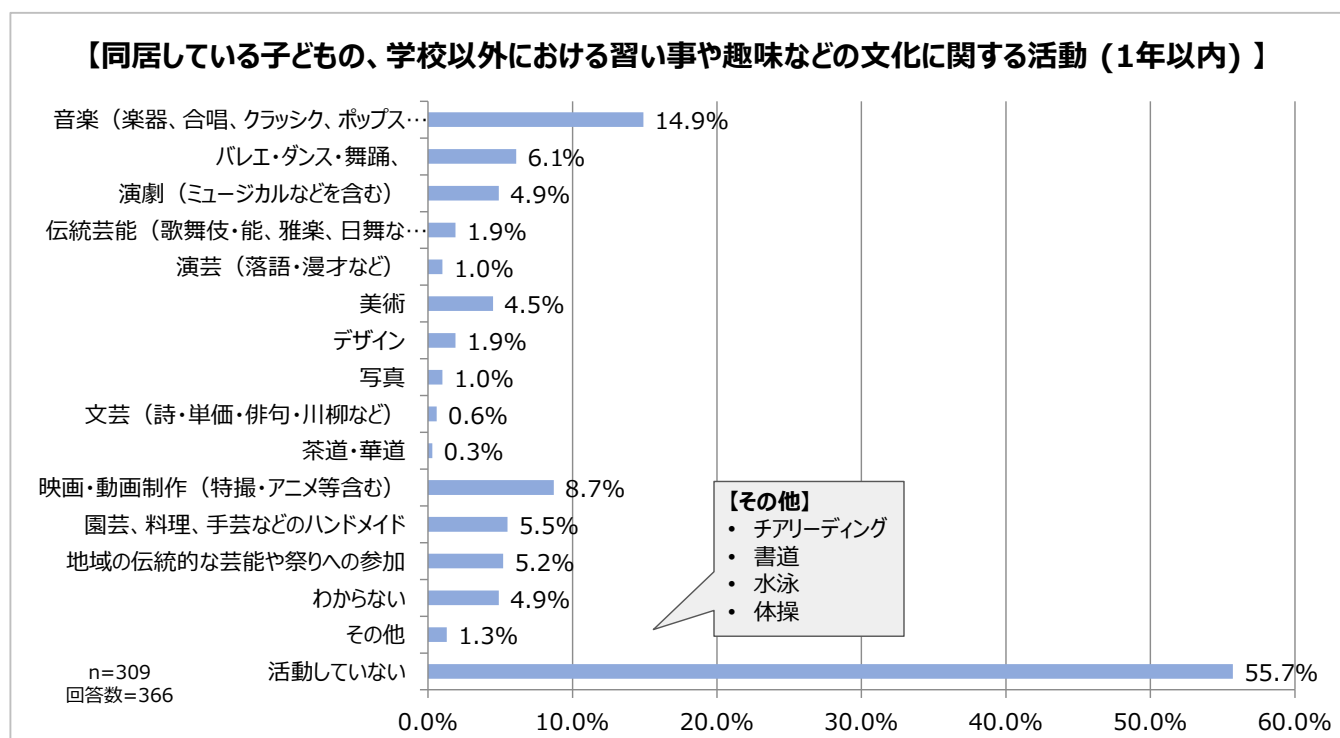
問5 あなたと同居している高校生以下のお子さんの中で「最も下の年齢のお子さん」は、この1年間に、文化や芸術を外出して鑑賞しましたか。(複数回答)

「鑑賞・参加していない」の回答が最も多く71.5%となっています。鑑賞した内容では、「映画鑑賞(特撮・アニメ等含む)」が最も多く、36.8%となっています。



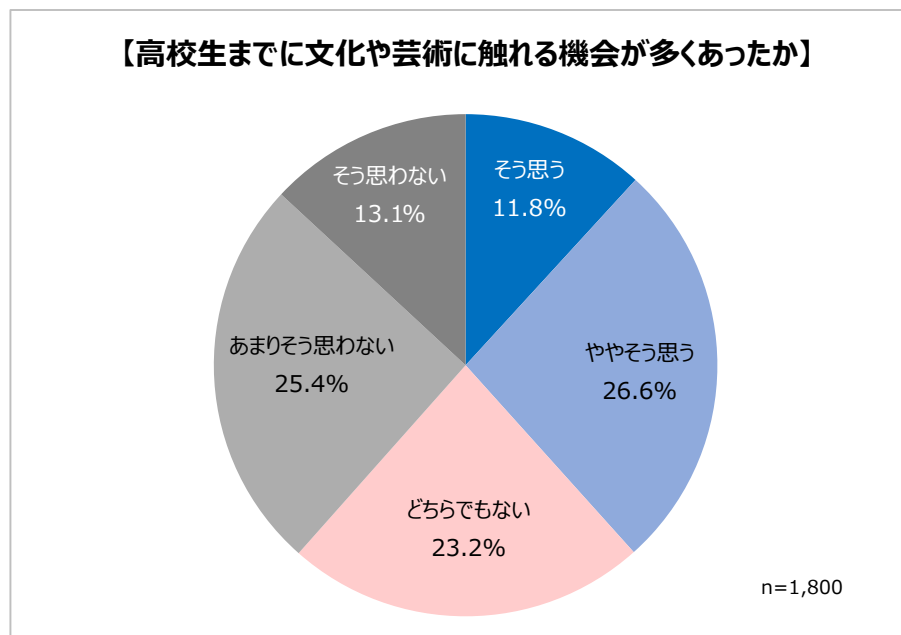
問6 あなたと同居している高校生以下のお子さんの中で「最も下の年齢のお子さん」は、この1年間に、学校以外で、習い事や趣味など、文化に関する活動をしましたか。

「活動していない」の回答が最も多く55.7%となっています。活動した内容では、「音楽(楽器、合唱、クラシック、ポップス)」が最も多く、14.9%となっています。



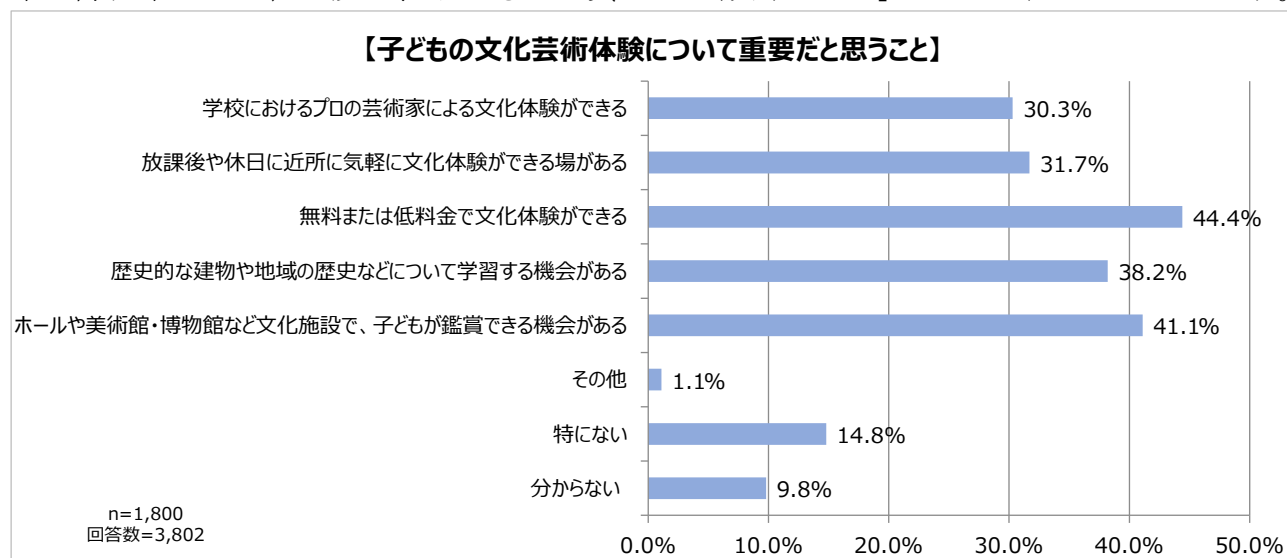
問7 あなた自身は、高校生までに文化や芸術に触れる機会は多くありましたか。

「ややそう思う」が25.6%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が25.4%となっています。



問8 子どもの文化芸術体験について重要だと思うことはなんですか。

「無料または低料金で文化体験ができる」が44.4%と最も多く、次いで「ホールや美術館・博物館など文化施設で、子どもが鑑賞できる機会がある」が41.1%となっています。



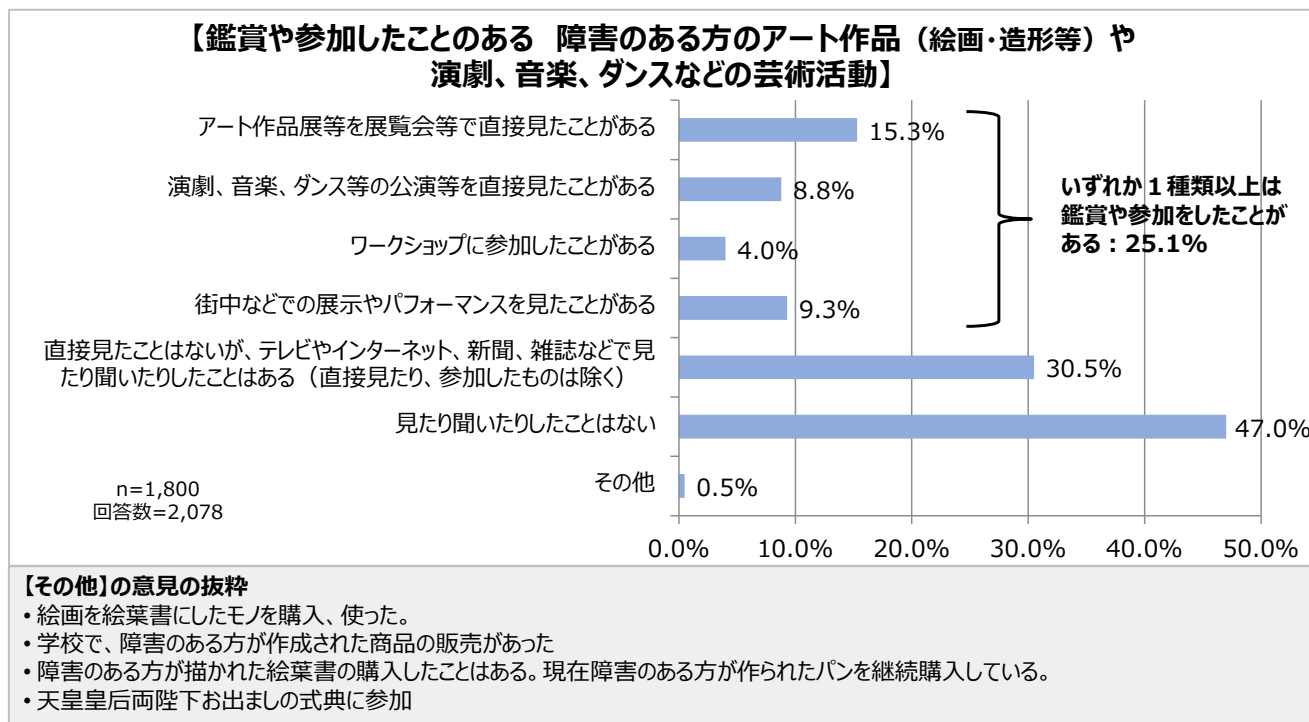
【その他】の意見の抜粋

- アートが楽しいものだと思わせ親しみを持たせること
- 興味が無い分野を強制されるのは辛い
- 高校生まで無償化
- 地域の特色、歴史的背景を全面に出したイベントの開催
- 習い事などができる金銭的なゆとりがある家庭に産まれる
- 周囲の大人からの影響
- 親から触れる機会をもらう
- 多くの人に開かれた文化的な場があることや、若手芸術家への支援の場があること

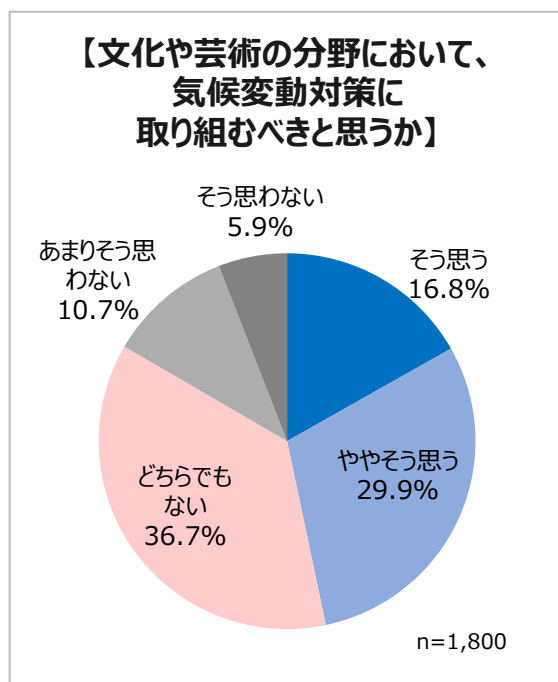
問9 あなたは、障害のある方のアート作品（絵画・造形等）や演劇、音楽、ダンスなどの芸術活動について、これまでに鑑賞や参加などしたことはありますか。

「見たり聞いたりしたことはない」が47.0%と最も多く、次いで「直接見たことはないが、テレビやインターネット、新聞、雑誌などで見たり聞いたりしたことはある（直接見たり、参加したものは除く）」が30.5%となっています。

なお、いずれか1種類以上は鑑賞や参加をしたことがあると回答した方は、25.1%となります（ビジョン1達成指標）。



問10 文化や芸術の分野において気候変動対策に取り組むべきだと思いますか。

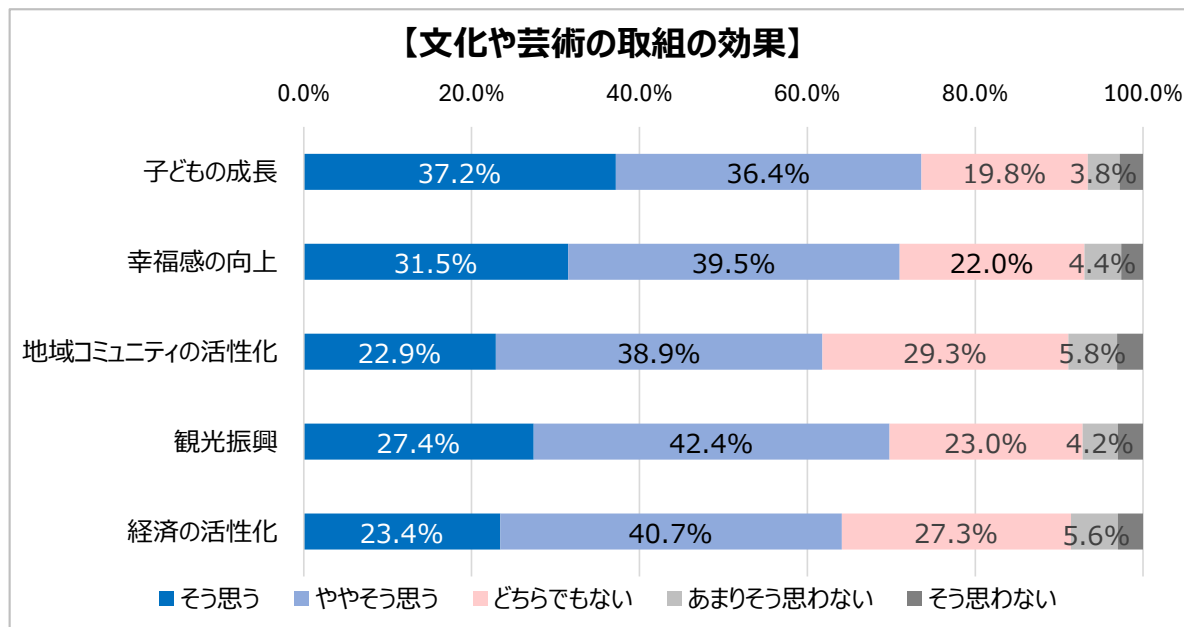


「ややそう思う」が29.9%と最も多く、次いで「そう思う」が16.8%となっています。

問 11 以下の文化や芸術の取組は社会的な効果があると思いますか。

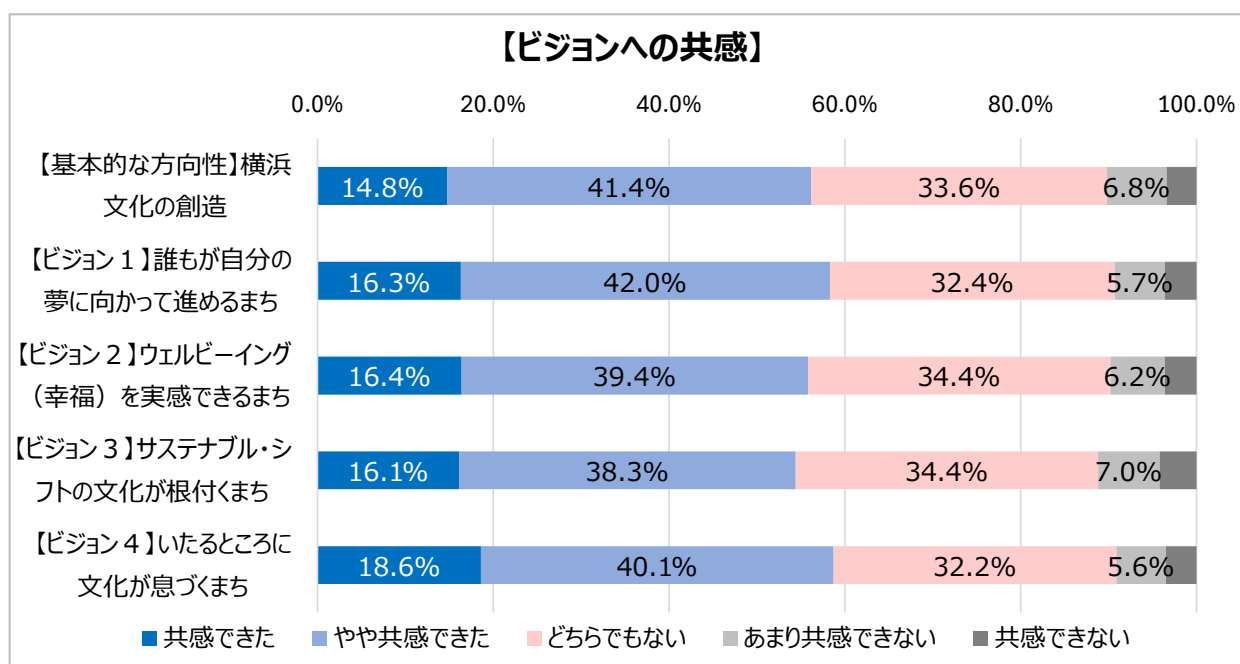
文化や芸術の取組の効果については、特に「子供の成長」において「そう思う」と回答した人が37.2%と多く、次いで「幸福感の向上」が31.5%となっています。

いずれの項目も「そう思う」「ややそう思う」という回答の合計が60%を超えており、過半数が肯定的な意見となっています。



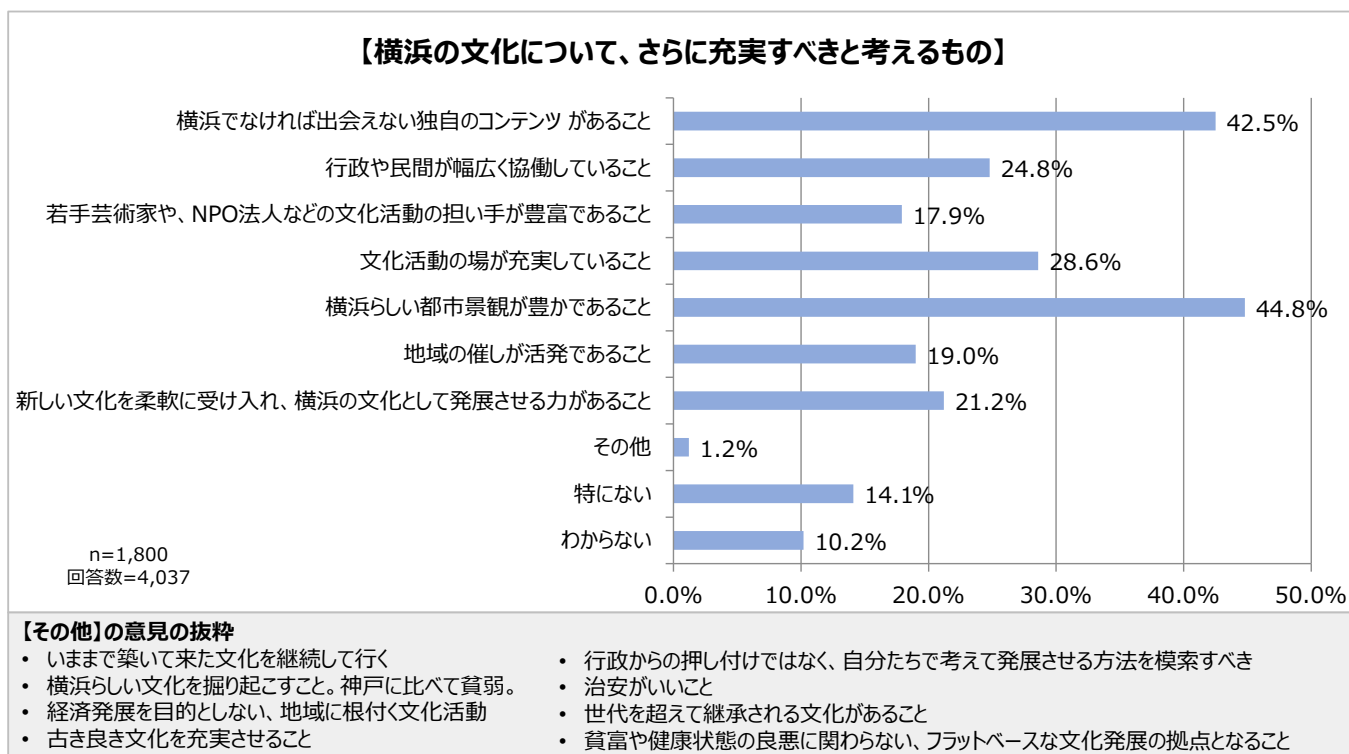
問 12 あなたは、本ビジョンに記載されている10年後の横浜の姿に共感できますか。

ビジョンへの共感では、「【ビジョン4】いたるところに文化が息づくまち」において「共感できた」という回答した人が18.6%と多くなっています。いずれのビジョンも傾向に大きな差はなく、「共感できた」「やや共感できた」という回答の合計が50%を超えており、過半数が肯定的な意見となっています。



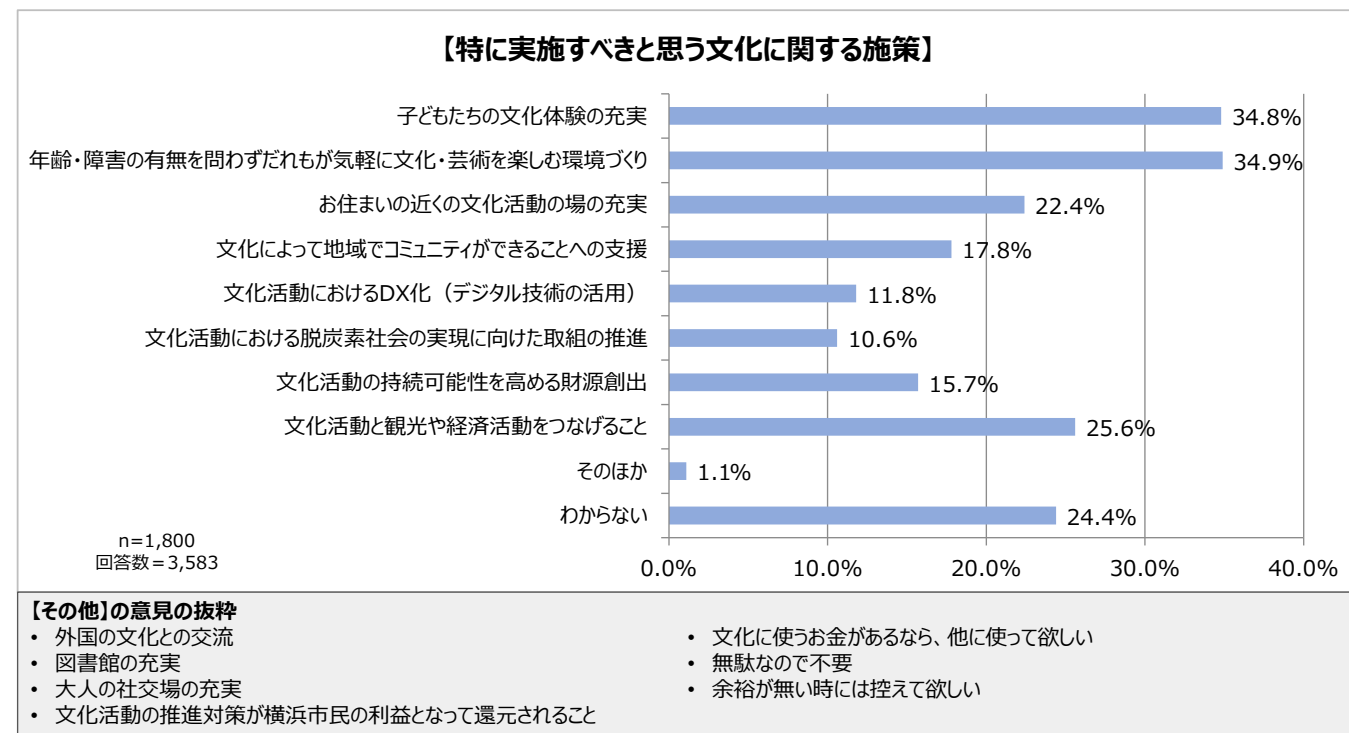
問 13 横浜の文化について、さらに充実すべきと考えるものについて、当てはまるものを全て選んでください。

「横浜らしい都市景観が豊かであること」が 44.8%と最も多く、次いで「横浜でなければ出会えない独自のコンテンツがあること」が 42.5%となっています。



問 14 特に実施すべきと思う文化に関する施策について、この中から当てはまるものを全て選んでください。

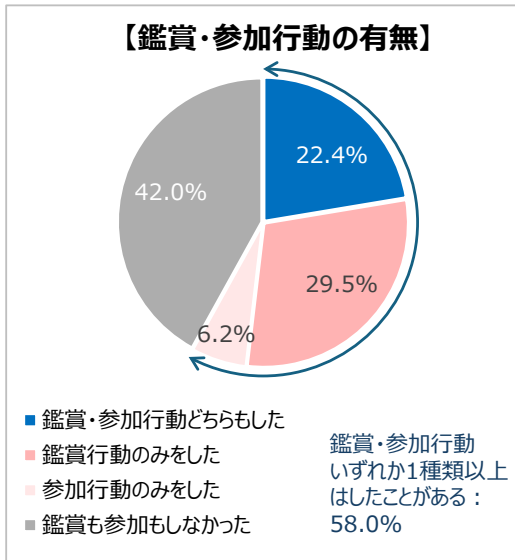
「年齢・障害の有無を問わずだれもが気軽に文化・芸術を楽しむ環境づくり」が 34.9%と最も多く、次いで「子どもたちの文化体験の充実」が 42.5%となっています。



【属性別の結果】

◆文化や芸術の鑑賞行動（問2）と文化に関する活動（参加行動）（問3）への回答

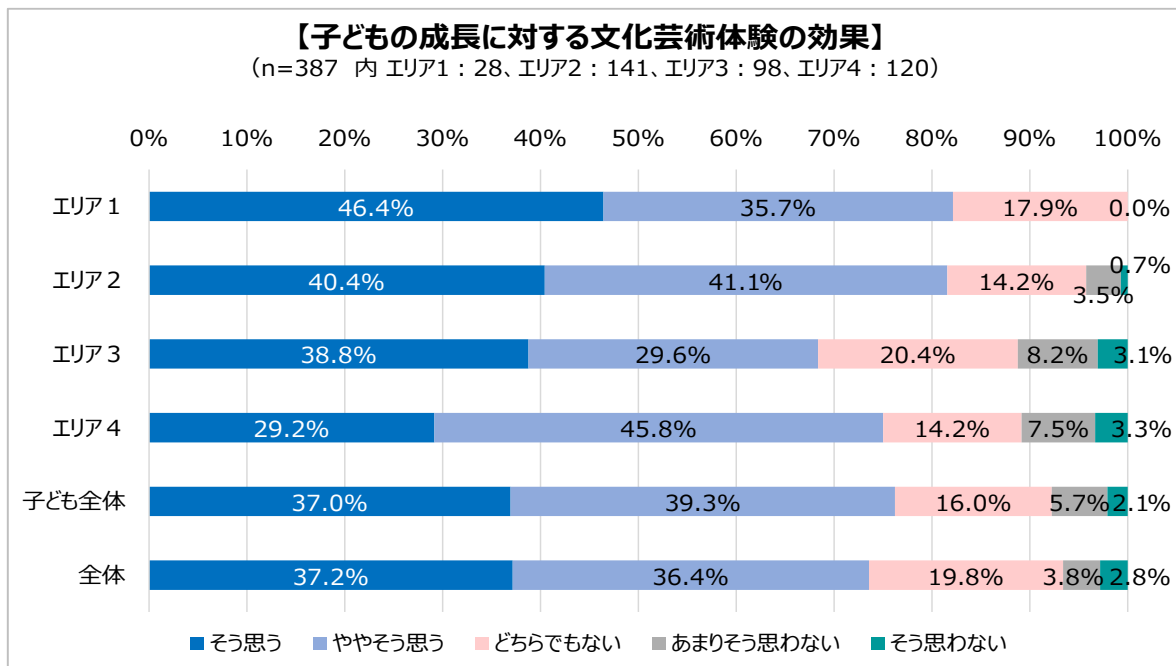
この1年間で鑑賞行動のみをした層が29.5%と最も多いですが、鑑賞・参加行動どちらもした層も22.4%と多く見られました。習い事や趣味などの参加行動のみをした層は6.2%と少なかったですが、鑑賞・参加いずれか1種類以上はしたことがある層は、58.0%と、回答者の半数を超えました（ビジョン1達成指標）。



	回答者数	割合
鑑賞・参加行動どちらもした	402	22.4%
鑑賞行動のみをした	530	29.5%
参加行動のみをした	111	6.2%
鑑賞も参加もしなかった	754	42.0%
計	1797	100.0%

◆子育て世帯の、子ども成長の成長における文化芸術の取組効果（問10）への回答

子育て世帯からは、子どもの成長に文化芸術体験が効果的だと思う、とする回答が全体より多くなっています。特に、エリア1の世帯で、文化芸術体験を重視する傾向がややみられました。



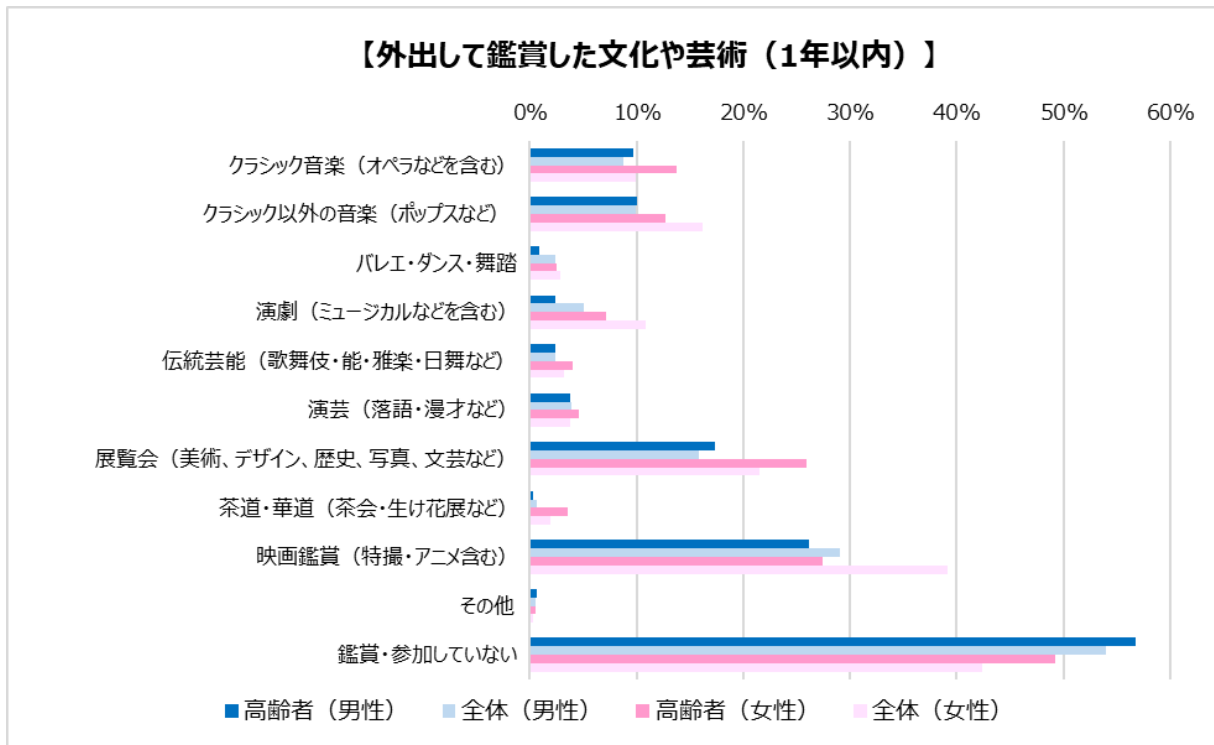
※参考 エリア1：中区、西区（都心臨海部）

エリア2：神奈川区、港北区、鶴見区、青葉区、都筑区、緑区（主に北部）

エリア3：磯子区、金沢区、港南区、栄区、南区（主に南部・海沿いエリア）

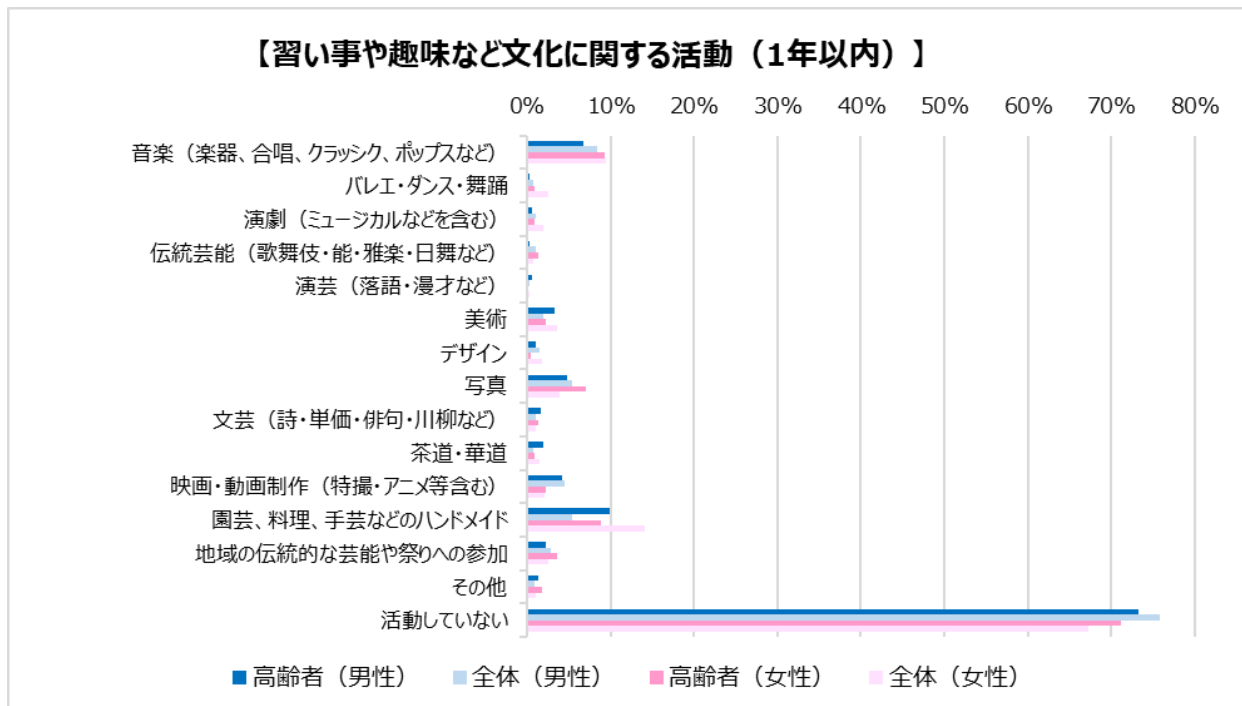
エリア4：旭区、瀬谷区、泉区、戸塚区、保土ヶ谷区（主に西部・丘陵エリア）

◆高齢者の鑑賞行動（問2）



高齢者の鑑賞行動は「鑑賞・参加していない」が全体に比較して多くなっています。また、女性の方が、鑑賞行動が多い傾向があり、特に「展覧会（歌舞伎・能・雅楽・日舞など）」が多くなっています。

◆高齢者の文化活動（問3）



高齢者の文化活動は「活動していない」が全体に比較して多くなっています。活動の詳細では、「音楽（楽器、合唱、クラシック、ポップスなど）」「園芸、料理、手芸などのハンドメイド」が多くなっています。

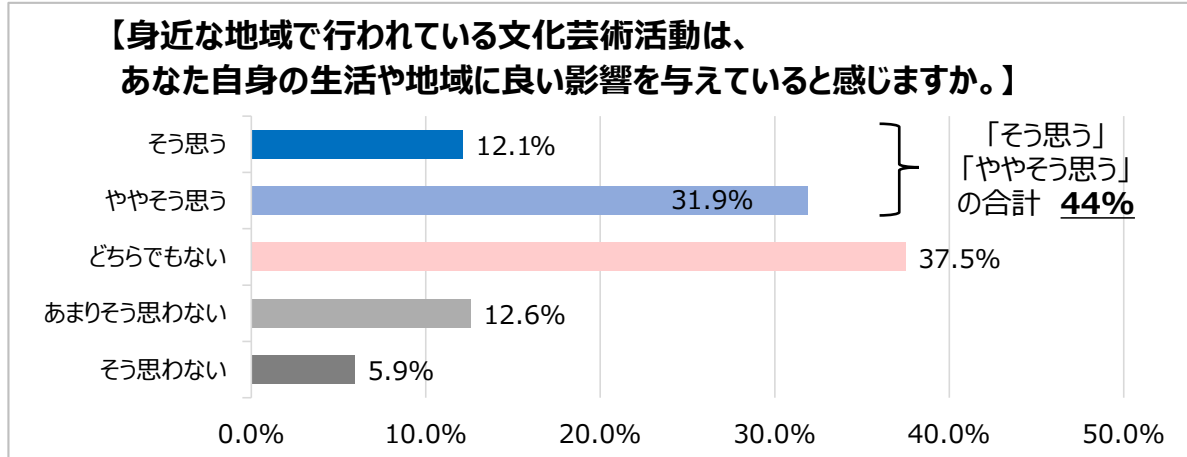
2 横浜市のスポーツ・文化に関するイメージ等調査（抜粋）概要

（1）調査の概要

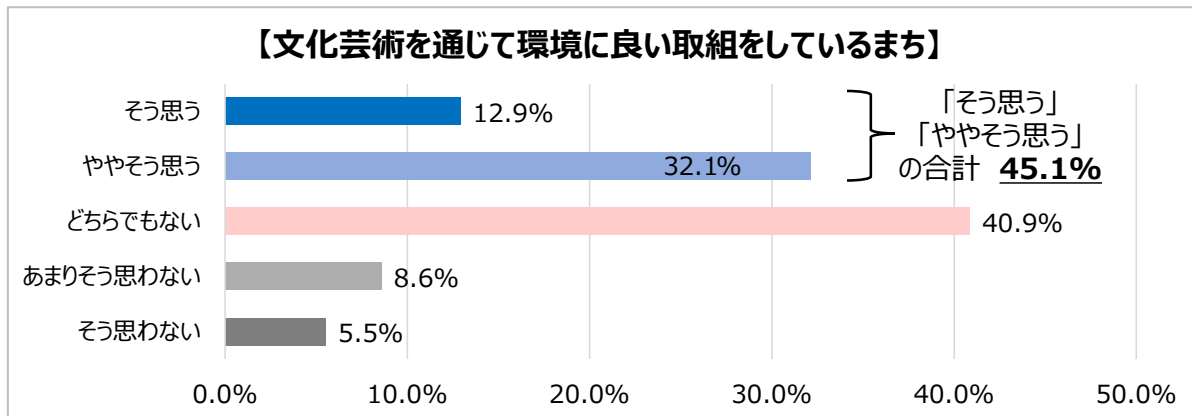
調査名	横浜市のスポーツ・文化に関するイメージ等調査
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・文化振興課・創造都市推進課が所管する施設・イベントの認知度等の確認 ・局内の事業において KPI として設定している指標の確認
手法	インターネットによるモニター調査（実施はGMOリサーチ&AI(株)）
対象	次の地域の16歳以上の男女 横浜市、神奈川県（横浜市除く）、東京都、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、群馬県
回収数	合計：2605 内訳：横浜市（1778※各区100程度）、神奈川県（268）、東京都（169）、埼玉県（113）、千葉県（111）、茨城県（55）、栃木県（55）、群馬県（56）
集計方法	<p>全回答（2605）のうち、79歳までの回答を元にしたウェイトバック集計[※]</p> <p>※ウェイトバック集計…1人あたりの回答について、回答者が属する母集団（居住地など）の構成比率に合わせるために「重み（ウェイト）」をかけて補正する集計方法。</p> <p>：市内の年代・性別の構成比（市公表住基台帳（R7.9時点））を踏まえた集計（回答数：1721）</p> <p>：各地域の人口・年代・性別の構成比（R2国勢調査）を踏まえた集計（回答数：2520）</p>

(2) 調査結果 (抜粋)

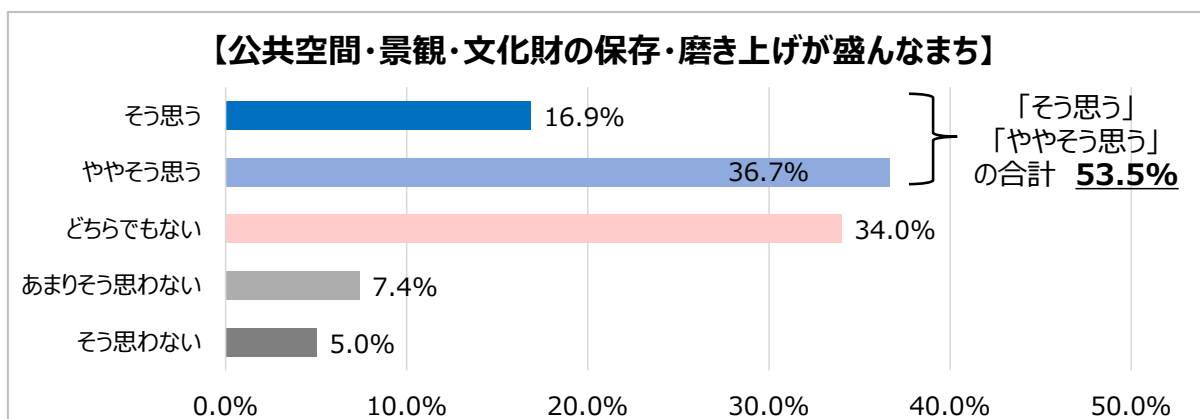
- ◆設問：身近な地域で行われている文化芸術活動は、あなた自身の生活や地域に良い影響を与えていると感じますか。(ビジョン2指標)



- ◆設問：「横浜について、次のイメージがどの程度当てはまると思うかお答えください」
・文化芸術を通じて環境に良い取組をしているまち(ビジョン3指標)



- ・公共空間・景観・文化財の保存・磨き上げが盛んな街(ビジョン4指標)



3 意見交換会の結果概要

(1) 実施概要

	対象	日時	場所	参加者数
1	アートサイト参加団体	2025年8月1日(金) 18:30-20:00	横浜市開港記念会館 (中区本町1丁目6-6)	8団体 11名
2	文化団体、文化施設や創造界隈拠点運営者等	2025年8月23日(土) 10:00-11:30	横浜市庁舎 市民協働スペース (中区本町6丁目50-10)	14団体 14名
		2025年8月23日(土) 13:00-14:30		12団体 12名
3	子育て世帯の保護者	2025年9月6日(土) 11:00-12:00	港北区地域子育て支援拠点どろっぷ (港北区大倉山3-57-3)	11組(申込時点。子どもと参加する保護者多数。)
4	子ども(文化体験事業の参加者/高校生、放課後キッズクラブ/小学生)	2025年7月24日(木)、25日(金) 2025年8月4日(月)、19日(火)、21日(木)	・主催事業参加者(高校生) ・各放課後キッズクラブ(小学生)	高校生 約80名 小学生 約100名
5	障害者団体及び障害者支援主体	2025年6月27日(金)、7月10日(木)、11日(金)、19日(土)、8月15日(金)	障害者スポーツ文化センター横浜ラポールほか	5団体
6	その他文化関係者	6月から9月	市内各地	約10団体

(2) 主な御意見

【ビジョン1に関する御意見】

(すべての市民に文化芸術をお届けする上での課題と対策)

情報発信・広報の課題

- 中心部に情報が集中し、周辺地域に届きにくい
- 紙媒体やSNSの活用が不十分
- 若者向けアプリの活用が有効
- デジタルとリアルの両立が必要
- 団体間の連携不足

調査・ニーズ把握

- 多様な生活背景に応じたニーズ調査が必要
- 福祉・教育部門との連携が不可欠

- バリアフリーや施設環境の実地調査
- 地域ごとの情報伝達の違いを把握する調査

行政の連携強化と手続き緩和

- 区と市の連携強化
- 教育機関との接点づくり
- 教員向けガイド整備
- 手続きの簡素化と規制緩和

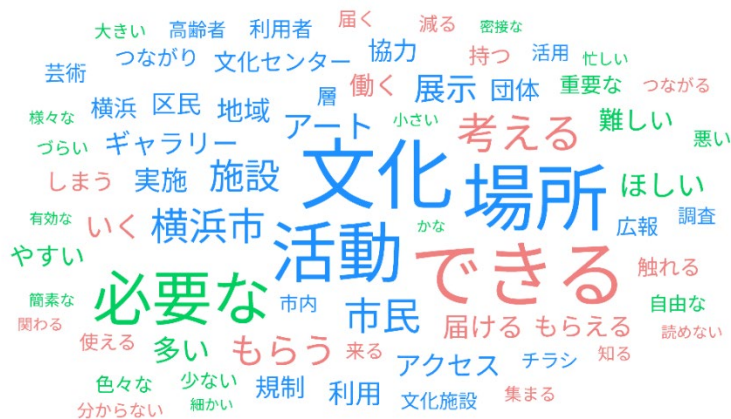
施設・拠点の課題

- 利用時間が平日昼間中心で使いづらい

- アクセスが不便な施設が多い
- 活動内容の自由度が低い
- 区民文化センターの使いづらさ
- 遊びや著作権切れ作品の活用で文化を身近に
- 外国人・障がい者への配慮（振り仮名、展示環境など）
- 教育との連携による次世代育成
- 地域芸術家の活用（作品収集、バスツアーなど）
- 文化の社会的意義（心の余裕を育む社会）

その他の取り組み

- 担当者の継続と人件費の確保
- 有料・無料のバランス設計（チケット制度など）



※ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析（<https://textmining.userlocal.jp/>）

（こどもの文化体験）

子どもの年齢・発達段階による制約

- 子どもがまだ小さく、泣く・騒ぐ・触る・飽きるなどの行動があるため、静かな施設や展示空間では気を使う。
- ハイハイや歩行ができないと楽しめないイベントも多く、0歳児向けとされていても実際には参加が難しい。
- 小学生以上が対象の体験型イベントが多く、未就学児には敷居が高い。

施設環境の配慮不足

- ベビーカーでの移動が困難（エレベーターの位置や段差など）。
- 授乳室やおむつ替えスペースが少ない、または案内が不十分。
- 図書館や美術館などでキッズスペースが静かな空間と分かれておらず、気軽に利用できない。
- トイレの鍵の位置など、子ども目線の設計がされていない。

情報の分散とわかりにくさ

- イベント情報が複数のサイトやアプリに分かれていて探しづらい。
- 掲載内容が統一されておらず、発達段階に応じた表記がないため、参加の判断が難しい。
- 区役所や赤ちゃん訪問時に情報提供はあるが、埋もれてしまい活用されにくい。
- インターネットに載っていない小規模イベントの情報が得にくく、偶然の出会いが少ない。

アクセス・移動の困難さ

- 車がない家庭では、電車や自転車での移動が大変。特に子どもが複数いる場合は負担が大きい。
- 近くに文化施設がないと、移動だけで疲れてしまう。
- ベビーカーでの道順を動画などで案内してくれる施設があると安心して行ける。

経済的・時間的制約

- イベントの参加費が高く、頻繁には参加できない。

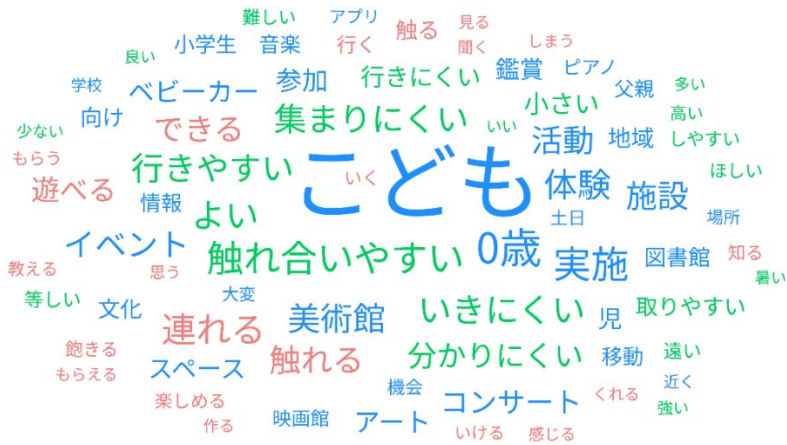
- 平日開催が多く、保護者（特に父親）が参加しづらい。土日のイベントも家族の予定と重なるため、早めの告知が必要。

文化体験の地域格差と集中

- 都心に行かないと体験できない文化芸術活動が多く、地域での開催が少ない。
- 盆踊りや花火などのイベントが同時期に集中しており、分散開催の工夫が求められる。
- 花火鑑賞の場所が限られており、近隣でも実施してほしいという声がある。

文化施設の敷居の高さ

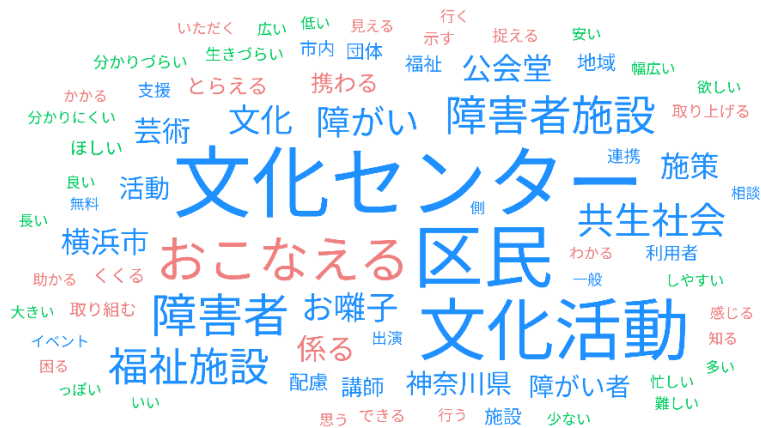
- 美術館や映画館は「静かにしなければならない」という印象が強く、子連れでは行きづらい。
- 0歳向けコンサートなども情報が届きにくく、参加のハードルが高い。
- 子どもが触れてもよい展示物や、保育士が見守ってくれる環境があると安心して参加できる。



※ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析（<https://textmining.userlocal.jp/>）

(障害者の文化芸術活動)

- 共生社会の実現に向けた文化芸術活動
- 活動環境の整備と支援
- 情報発信と制度の透明化
- 若者・地域との連携
- 夏場の安全対策



※ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析（<https://textmining.userlocal.jp/>）

【ビジョン2に関する御意見】

（「ウェルビーイング（幸福）を実感できるまち」を実現する上での課題等）

文化芸術と地域コミュニティの関係

- 人と人をつなげるきっかけ
- 場と出会いが重要
- 対立を和らげる効果

活動の効果

- 家族や地域を巻き込んだ交流
- 地域住民とのつながり促進

地域コミュニティ形成における「場」

- 文化活動の拠点としての「場」の役割
- アクセスと立地の重要性
- 「地域文化のハブ」へと再定義
- 市のビジョンの明確化

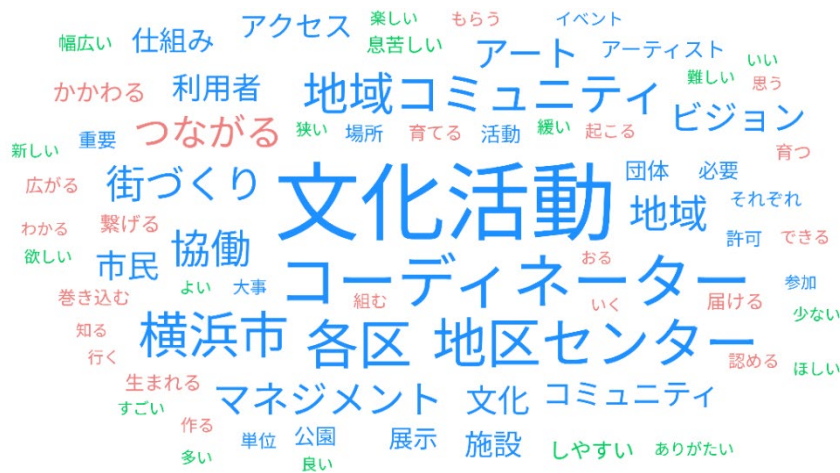
- 10年先を見据えた地域コミュニティの人材育成と仕組みづくりが重要

文化で地域コミュニティを形成するために必要な取組

- 人材面の課題（コーディネーター育成等）と支援
- 情報発信・広報の工夫
- 行政との連携

その他

- 継続性の確保
- 文化の地域格差への対応



※ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析（<https://textmining.userlocal.jp/>）

4 横浜未来の文化ビジョン（仮称）有識者懇談会

（1）委員名簿

氏名	肩書（所属）
雨宮 聡子	特定非営利活動法人びーのびーの COCO ひよし事業代表
大島 広子	一般社団法人 Image Nation Green 代表理事
緒方 泉	九州産業大学 地域共創学部 教授
岡部 友彦	創造界限形成推進委員会 委員長、コトラボ合同会社代表
上條 浩	障害者スポーツ文化センター横浜ラポール 館長
小平 功一	横浜美術協会 会長
玉川 恵美子	横浜市 PTA 連絡協議会 副会長
名倉 直	横浜市老人クラブ連合会 常務理事兼事務局長
西田 由紀子	市民メセナ協会 会長
廣安 ゆきみ	READYFOR 株式会社 文化部門長・キュレーター

（2）議事概要

【日時】2025年10月27日（月）13:00-15:00

【場所】横浜市庁舎なみき16会議室

【委員からの主なご意見】

- ・「芸術文化活動を、環境に配慮した手段で行う」、「芸術文化を通じて環境と未来のあり方を伝え市民の皆様の行動変容につなげる」の両面で進める必要がある
- ・文化事業での気候変動対策の取組は、イギリスでは市民に広く受け入れられている。インセンティブや文化芸術分野における気候変動対策への市民の皆様の理解が進んでいくよう周知していくことが重要。
- ・障害のある方にスポットをあてた書き方がありがたい。
- ・障害者の方の芸術活動については、福祉的な側面と、プロとして障害の有無にかかわらず優れた作品が評価されている人と両方のアプローチがある。
- ・アクセシビリティが重要。ユニバーサルな取組があれば、障害の有無に関係なく心理的、物理的な近さを生み出せる。
- ・美術団体の高齢化の波が日本国中の公募団体で起きている。一方、美術大学も就職先がないため学生が集まらない。
- ・地域の美術団体は、高齢者の生きがいつくりの面での社会貢献になるのではないかと。

- ・ビジョン1・2に記載されている10年後のストーリーは現在でも個別に達成されているものもあるが、こうした個別の事例を知らない人もいるので、それを周知することに意味がある。
- ・民間企業との連携では資金面が重要。クラウドファンディングなどで、楽器、指導者経費などを出すことも考える必要がある。
- ・ビジョンの名前が「文化」ビジョンなのは、文化の幅の広さが意識されている。
- ・横浜の強み、横浜ならではとあるが、お年寄りの活動としては「強み」や「ならでは」を感じなくてもいいと思っている。そのあたりのバランスも考えたい。
- ・老人クラブも文化活動の担い手である。ウエルビーイングに独居高齢者のことが入っているのはありがたい。
- ・文化ビジョンには共感するところが多かった。
- ・横浜らしさが大切。横浜18区、それぞれの区ごとのらしさ、格差がある。
- ・金沢文庫や三溪園、古墳や城跡等横浜への愛着と誇りをもってわが町を語れるように。
- ・文化芸術活動だけでなく、市民、企業、教育機関すべてが関与してまちづくりを行い、文化芸術の価値やわが町の価値を語れるまちづくりが必要である。
- ・クラウドファンディングなどファンドレイジングを推進している。近年、遺贈が活発化、マッチング、コンサルティングを行っている。
- ・文化活動の持続可能性としては、公的資金、事業収入、寄付収入の3つのバランスを取る必要がある。
- ・市内の地域ごとに特性がある。区ごとのビジョンを考えても良いのではないか。
- ・文化事業に税金を投入する意義を、エビデンスで説明していかないといけない。博物館に行くことで心身の健康に良い影響があることについて実証実験を重ねている。
- ・文化芸術はつながりの場となる。スイス、ベルギー、台湾でも博物館が処方されている。
- ・横浜トリエンナーレについて、多様性、海外の作品、子どもたちに創造性の体験という面で良いと思うので、ぜひ続けていただきたいと思うが、若干難しすぎる。一般市民から見ると、トリエンナーレ開催テーマがわからないでひいてしまう、説明がわかりづらい。わかりやすさがあると広がり期待できると思う。
- ・横浜トリエンナーレは特に最近難しい。とがったことを行政でできることは横浜の力だと思う。一概にわかりやすくするのはどうかと思う一方で、難しいことは確かに難しい。
- ・横浜トリエンナーレでは、あまり、サポーターチームを募集していない、瀬戸内国際芸術祭などでは地域の方々を内部に取り組むことを行っている。
- ・文化にはライフスタイルや地域の特性・個性も含まれるべき

- ・創造性は子育てや商売、金融など多様な分野に存在する。横浜らしい文化の定義を広げ、誘致や産業政策にもつなげる。
- ・北海道浦幌町の事例：地域の人と子どもをつなぐ教育がUターンにつながる。横浜でも地元に着愛を持ち、戻ってくる仕組みが必要。
- ・トリエンナーレは美術館中心ではなく街に出て市民が歩きながら楽しめる形にすべき。
- ・文化活動の場の確保が課題。特に子どもたちが放課後に集える場所が不足している。図書館や博物館などの文化施設が身近に少なく、子どもが本に触れる機会が少ない。
- ・文化活動を通じて地域課題（子育て、孤立、高齢者支援など）を解決するアプローチが有効。
- ・文化施設やイベントの情報が市民に届きにくい、情報発信の工夫が必要。

(以上)

5 本市の文化に関する基礎データ

(1) 市による集計

【市内文化団体数】

1958 団体（18 区調査）（2023（令和 5）年）

【市内文化施設数】

346 施設

（公設民設含む、ホール、美術館・博物館、ギャラリー、ライブハウス、映画館）（2025（令和 7）年 4 月現在）

（参考：市立文化施設利用者数 269 万人（2023（令和 5）年））

【内訳】

公民区分	区分	内 訳				
		横浜市	神奈川県・国		施設数	
公設	ホール等	岩間市民プラザ、大倉山記念館、久良岐能舞台、産業貿易センタービル(ホール部分)、市民文化会館関内ホール、長浜ホール、横浜アリーナ、横浜市技能文化会館、横浜市芸能センター（横浜にぎわい座）、横浜能楽堂、横浜みなとみらいホール、吉野町市民プラザ、パシフィコ横浜、ST スポット 区民文化センター（都筑区民文化センター含む） 13 公会堂 18 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール	46	神奈川県立県民ホール（休館）、神奈川県立県民ホール神奈川芸術劇場（KAAT）、神奈川県立音楽堂、神奈川県立かながわアートホール、紅葉坂ホール・スタジオ HIKARI	5	51
	ギャラリー	横浜市民ギャラリーあざみ野、横浜市民ギャラリー（旧いせやま会館）、サブウェイギャラリーM	3	かながわ県民センター、神奈川県立かながわ労働プラザ・ギャラリー	2	5
	美術館・博物館等	大佛次郎記念館、日本丸メモリアルパーク横浜みなと博物館、横浜市八聖殿郷土資料館、横浜開港資料館、横浜こども科学館、横浜市三殿台考古館、横浜市歴史博物館、横浜市歴史博物館野外施設、横浜都市発展記念館、横浜ユーラシア文化館、横浜人形の家、横浜美術館、三溪園、横浜市電保存館、横浜市防災センターイギリス館、山手 111 番館、エリスマン邸、ベリックホール、山手 234 番館、外交官の家、ブラフ 18 番館、横浜山手テニス発祥記念館 金沢動物園、野毛山動物園、万騎が原ちびっこ動物園、よこはま動物園、横浜市立間門小学校附属海水水族館、横浜市こども植物園（環境活動支援センター）	29	神奈川県立近代文学館、神奈川県立歴史博物館、金沢文庫、地球市民かながわプラザ（あーすぶらざ）、神奈川県立公文書館 JICA 横浜 海外移住資料館、横浜税関資料展示室クイーンのひろば、海上保安資料館横浜館	8	37
	その他	旧第一銀行横浜支店、急な坂スタジオ（旧老松会館）、旧富士銀行映像文化施設、陶芸センター、旧中区健診・予防接種センター、埋蔵文化財センター、赤レンガ倉庫 1 号館、大さん橋国際客船ターミナル、金沢八景島客船ターミナル、旧川合玉堂別邸庭園、旧関東財務局横浜財務事務所、自然観察の森 自然観察センター、寺家ふるさと村総合案内所四季の家、象の鼻テラス、舞岡ふるさと村総合案内所虹の家、みなとみらいさん橋付属旅客施設、横浜港シンボルタワー、横浜マリントワー、黄金町エリアマネジメントセンター、NEW（旧 BankART Station）	20			20
	小 計		98	小 計	15	113

民設	小区分	内 訳	施設数
	ライブハウス・アリーナ	Kアリーナ横浜、ぴあアリーナMM、KT Zepp Yokohama、Billboard Live YOKOHAMA など	78
	その他ホール系	横浜ランドマークホール、藤原洋記念ホール、池田コンサートサロンなど	16
	ギャラリー	サブウェイギャラリーM、ゴールデンギャラリーなど	86
	ミュージアム系	そごう美術館、神奈川県立歴史博物館など	37
	映画館	T・ジョイ横浜、横浜ブルク 13、TOHO シネマズららぽーと横浜など	16
	小計		233
合計		346	

【区民文化センターの比較表】

	愛称	開館日	延床面積 (㎡)	主ホール		利用者 (人)	利用率 (%)
				ホール用途	座席数 (席)		
旭区	サンハート	H2. 8. 4	3, 396	多目的ホール	300	78, 579	75
青葉区	フィリアホール	H5. 4. 30	3, 381	音楽系ホール	500	64, 796	83
泉区	テアトルフォンテ	H5. 9. 3	3, 160	演劇系ホール	386	48, 470	73
港南区	ひまわりの郷	H9. 7. 7	4, 128	音楽系ホール	381	61, 350	80
栄区	リリス	H10. 2. 1	3, 951	音楽系ホール	300	95, 009	97
神奈川区	かなつくホール	H16. 7. 16	4, 029	多機能ホール	300	87, 811	94
磯子区	杉田劇場	H17. 2. 5	3, 884	多機能ホール	310	67, 926	66
鶴見区	サルビアホール	H23. 3. 4	5, 588	多機能ホール	548	99, 151	73
戸塚区	さくらプラザ	H25. 8. 31	4, 517	多機能ホール	451	115, 535	78
緑区	みどりアートパーク	H25. 10. 5	3, 058	多機能ホール	336	119, 012	98
瀬谷区	あじさいプラザ	R4. 3. 1	1, 611	—	—	118, 832	90
港北区	ミズキーホール	R6. 3. 24	2, 998	多機能ホール	401	61, 782	67
都筑区	ボッシュ ホール	R7. 3. 16	7, 507	多機能ホール	310	5, 682	58

(2) 政府統計等

社会生活基本調査は、総務省が5年間に1度、国民の生活時間の配分や自由時間における主な活動の状況などの実態を明らかにするために実施している統計調査です。回答者の慢性的な病気や長期的な健康問題の有無別に、趣味・余暇に関する特定の活動を1日でも行った人の割合（行動者率）を把握することができます。

横浜市在住の回答者に限定したデータは公表されていませんが、統計法第32条及び33条に基づき、政府統計について、既存の調査結果（集計表・報告書等）のほかに、新たな統計作成や統計手法を利用した学術研究等のために活用することができ

る制度を活用し、横浜市のデータを作成しました。

それぞれの趣味・余暇について、「慢性的な病気や長期的な健康問題」の有無による行動者率の差を比較しました。数値がプラスの場合、「慢性的な病気や長期的な健康問題」が無い人より有る人の方が趣味・余暇を活動したことがあり、マイナスの場合、「慢性的な病気や長期的な健康問題」が有る人より無い人の方が趣味・余暇を活動したことがあることを示します。また、同じ比較を、公表されている全国全体、大都市（人口20万人以上）全体の行動者率を基に実施しました。

その結果、横浜市は、国全体や大都市全体他の比較対象と比べて、「慢性的な病気や長期的な健康問題」が有る人と無い人の行動者率の差分がプラスである趣味・余暇活動が多く、慢性的な病気や長期的な健康問題の有無にかかわらず、趣味・余暇活動を行える市民が相対的に多いと考えられます。

地域	横浜市			大都市			全国			
	男女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
00_総数		3.4%	1.7%	4.9%	-4.8%	-3.0%	-6.5%	-6.0%	-4.8%	-6.9%
01_スポーツ観覧・観戦 ※2		1.9%	3.3%	0.7%	-3.5%	-4.1%	-2.7%	-5.4%	-6.0%	-4.7%
02_美術鑑賞 ※2		0.2%	0.6%	-0.2%	-0.9%	1.1%	-3.0%	-0.9%	0.3%	-2.1%
03_演芸・演劇・舞踊鑑賞 ※2		0.9%	1.3%	0.5%	-2.7%	-1.5%	-3.9%	-1.6%	-0.7%	-2.6%
04_映画館での映画鑑賞		10.3%	9.9%	10.6%	-15.1%	-14.4%	-15.9%	-15.4%	-14.2%	-16.4%
05_映画館以外での映画鑑賞(テレビ・DVD・パソコンなど)		10.1%	4.2%	15.3%	-10.1%	-4.8%	-14.9%	-12.0%	-8.4%	-15.2%
06_コンサートなどによるクラシック音楽鑑賞		-0.4%	-1.2%	0.3%	-0.4%	-0.3%	-0.6%	-0.4%	-0.2%	-0.7%
07_コンサートなどによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞		3.2%	2.2%	4.0%	-2.6%	-2.5%	-2.9%	-2.1%	-1.6%	-2.8%
08_CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞		10.9%	8.1%	13.4%	-16.4%	-12.9%	-19.7%	-18.3%	-15.8%	-20.5%
09_楽器の演奏		0.8%	-1.5%	2.9%	-3.8%	-2.8%	-4.8%	-3.5%	-2.5%	-4.5%
10_邦楽(民謡、日本古来の音楽を含む)		0.8%	1.3%	0.4%	-1.1%	-1.0%	-1.2%	-1.2%	-1.3%	-1.1%
11_コーラス・声楽		-1.2%	-0.6%	-1.7%	-0.1%	-0.3%	0.2%	0.1%	-0.2%	0.4%
12_カラオケ		5.6%	3.2%	7.8%	-8.3%	-6.5%	-9.8%	-7.6%	-7.0%	-8.2%
13_邦舞・おどり		0.3%	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%	-0.1%	-0.4%	-0.1%	-0.6%
14_洋舞・社交ダンス		0.9%	0.2%	1.6%	-0.1%	0.0%	-0.2%	-0.2%	-0.2%	-0.2%
15_書道		-0.7%	-1.6%	0.2%	-0.2%	0.1%	-0.5%	-0.3%	0.0%	-0.5%
16_華道		-1.0%	0.0%	-2.0%	0.5%	0.0%	0.9%	0.5%	-0.1%	0.9%
17_茶道		-0.1%	-0.1%	-0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%
18_和裁・洋裁		-0.2%	0.4%	-0.8%	0.8%	0.4%	0.7%	0.8%	0.0%	1.4%
19_編み物・手芸		-1.1%	0.3%	-2.6%	0.8%	0.0%	0.9%	1.1%	-0.2%	1.8%
20_趣味としての料理・菓子作り		5.8%	0.0%	10.8%	-7.7%	-4.3%	-11.7%	-6.7%	-3.3%	-10.2%
21_園芸・庭いじり・ガーデニング		-10.5%	-10.8%	-10.3%	7.4%	6.6%	7.8%	9.6%	9.6%	9.4%
22_日曜大工		-1.7%	-4.4%	0.9%	0.8%	3.8%	-1.7%	1.4%	4.3%	-1.1%
23_絵画・彫刻の制作		-1.4%	0.2%	-2.9%	-0.3%	-0.6%	-0.1%	-0.1%	0.0%	-0.1%
24_陶芸・工芸		0.3%	0.1%	0.6%	-0.1%	0.1%	-0.2%	0.0%	0.2%	-0.1%
25_写真の撮影・プリント		4.6%	-2.3%	10.7%	-7.0%	-2.1%	-11.8%	-6.2%	-1.2%	-11.1%
26_詩・和歌・俳句・小説などの創作		-0.7%	-0.5%	-0.8%	1.2%	1.0%	1.4%	0.5%	0.4%	0.7%
27_趣味としての読書(マンガを除く)		-4.1%	-8.0%	-0.7%	-2.1%	-1.3%	-3.0%	-1.3%	-0.2%	-2.3%
28_マンガを読む		14.8%	17.9%	12.0%	-16.6%	-17.5%	-15.6%	-18.0%	-19.3%	-16.6%
29_囲碁		-0.7%	-1.2%	-0.2%	0.2%	0.7%	-0.2%	0.4%	0.9%	0.0%
30_将棋		-0.7%	-1.8%	0.3%	-0.3%	0.6%	-0.8%	-0.3%	-0.1%	-0.5%
31_パチンコ		1.0%	1.7%	0.3%	-0.9%	-0.9%	-0.6%	-1.0%	-1.4%	-0.4%
32_スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム		11.6%	14.1%	9.4%	-16.3%	-18.2%	-14.4%	-18.1%	-20.9%	-15.2%
33_遊園地、動植物園、水族館などの見物		6.2%	5.4%	6.8%	-10.0%	-7.3%	-12.6%	-8.7%	-6.4%	-10.9%
34_キャンプ		3.8%	5.8%	2.0%	-5.0%	-4.8%	-5.1%	-4.1%	-4.4%	-3.9%
35_その他		-2.0%	-1.7%	-2.1%	1.0%	0.9%	1.1%	1.0%	1.1%	0.8%

※1 大都市：人口100万人以上の市

※2 テレビ・スマートフォン・パソコンなどは除く

6 文化に関する関連法令

(1) 法令

- ・文化芸術基本法（2018（平成13）年施行、2017（平成29）年改正）
- ・障害者による文化芸術活動の推進に関する法律（2018（平成30）年施行）
- ・社会教育法（1949（昭和24）年施行）
- ・文化財保護法（1950（昭和25）年施行）
- ・図書館法（1950（昭和25）年施行）
- ・博物館法（1952（昭和27）年施行）
- ・著作権法（1971（昭和46）年施行）
- ・伝統工芸品産業の振興に関する法律（1974（昭和49）年施行）
- ・音楽文化の振興のための学習環境の整備等に関する法律（1994（平成6）年施行）
- ・美術品の美術館における公開の促進に関する法律（1998（平成10）年施行）
- ・文字・活字文化振興法（2005（平成17）年施行）
- ・地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（2008（平成20）年施行）
- ・古典の日に関する法律（2012（平成24）年施行）
- ・劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（2012（平成24）年施行）
- ・国際文化交流の祭典の実施の推進に関する法律（2018（平成30）年施行）
- ・文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律（2020（令和2）年施行）

(2) 条例

- ・横浜市公園条例（大倉山記念館、長浜ホール、陶芸センター、大佛次郎記念館）
（1958（昭和33）年施行）
- ・横浜市文化基金条例（1981（昭和56）年施行）
- ・市民文化会館条例（1986（昭和61）年施行）
- ・横浜美術館条例（1989（平成元）年施行）
- ・区民文化センター条例（1993（平成5）年施行）
- ・市民ギャラリー条例（1993（平成5）年施行）
- ・横浜能楽堂条例（1996（平成8）年施行）
- ・横浜みなとみらいホール条例（1998（平成10）年施行）
- ・横浜市芸能センター条例（2002（平成14）年施行）

7 横浜市文化行政史

年	項目
1903（明治36）年	市原盛宏市長（第4代）が施政方針演説で「商品陳列場・美術館は、市民の目を楽しませると共に、商工業上の意匠を開発するの一助となり、公園・水族館・神社仏閣等、市民一般の心身保全発育に裨補するもの少々ならざるなり」と述べた。
1919（大正8）年	横浜美術協会設立、輸出工芸品のデザイン向上を目的として第1回横浜美術展開催。
1923（大正12）年	関東大震災
1945（昭和20）年	横浜大空襲
1947（昭和22）年	横浜市役所に民生局文化課が創設される
1953（昭和28）年	横浜文化団体連絡協議会発会式 第1回横浜文化賞受賞式（横浜宝塚劇場） 原家から三溪園が横浜市に寄贈。財団法人三溪園保勝会設立 第1回横浜能（会場：国際文化会館）が3日間にわたって開催
1959（昭和34）年	シルク博物館開館
1964（昭和39）年	旧中区役所ビルを「横浜市民ギャラリー」として開館 第1回今日の作家展（市民ギャラリー）
1974（昭和49）年	教育文化センターオープン、ギャラリー、広報センター、消費者センターなど併設（7/5）
1978（昭和53）年	大佛次郎記念館開館
1981（昭和56）年	横浜市文化問題懇談会提言「みんなでつくろうヨコハマ文化」
1982（昭和57）年	市民局に市民文化室設置
1983（昭和58）年	横浜市民文化振興協議会報告書「豊かな市民文化の創造を求めて」
1984（昭和59）年	大倉山記念館開館
1985（昭和60）年	横浜市文化基本構想 そごう美術館開館
1986（昭和61）年	関内ホール開館
1987（昭和62）年	横浜市美術振興財団設立 久良岐能舞台開館 STスポット開設

1988（昭和 63）年	各区役所に地域文化振興担当職員配属
1989（平成元）年	横浜アリーナオープン 吉野町市民プラザ開館 横浜美術館開館
1990（平成 2）年	旭区民文化センターサンハート開館
1991（平成 3）年	横浜市文化振興財団設立 岩間市民プラザ開館
1992（平成 4）年	障害者スポーツ文化センター横浜ラポール開館
1993（平成 5）年	フィリアホール（現・青葉区民文化センター）開館 泉区民文化センターテアトルフォンテ開館 横濱ジャズプロムナード開始 日本郵船歴史資料館開設（2003 年に日本郵船歴史博物館に改称）
1994（平成 6）年	横浜市中心図書館開館
1995（平成 7）年	横浜市歴史博物館開館
1996（平成 8）年	ヨコハマダンスコレクション開始 横浜能楽堂開館
1997（平成 9）年	長浜ホール開館 港南区民文化センターひまわりの郷開館
1998（平成 10）年	栄区民文化センターリリース開館 横浜みなとみらいホール開館
2001（平成 12）年	第 1 回横浜トリエンナーレ開催
2002（平成 14）年	横浜市美術振興財団と横浜市文化振興財団を統合し、横浜市芸術文化振興財団発足 横浜赤レンガ倉庫 1 号館開館 横浜にぎわい座開館
2004（平成 16）年	文化芸術観光振興による都心部活性化検討委員会による提言「クリエイティブシティの形成に向けて」 BankART1929 活動開始 文化芸術都市創造事業本部設置（文化政策課、創造都市推進課） 神奈川区民文化センターかなつくホール開館
2005（平成 17）年	BankART NYK 開館 磯子区民文化センター杉田劇場開館 東京藝大大学院映像研究科開校 市民ギャラリーあざみ野（男女共同参画センター横浜北と併設）開館
2006（平成 18）年	指定管理者制度本格実施

	旧関東財務局を活用した ZAIM 開館 急な坂スタジオ開館
2007（平成 19）年	アーツコミッション・ヨコハマ設立 第 61 回全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜開催、以降毎年開催
2008（平成 20）年	横浜市が文化庁長官表彰（創造都市部門）を受賞 横浜市芸術文化教育プラットフォーム設立 黄金町バザール開始
2009（平成 21）年	ヨコハマ創造都市センター運営開始 象の鼻パーク（象の鼻テラス）オープン 横浜クリエイティブシティ国際会議
2010（平成 22）年	横浜市文化施設の機能等に関する懇談会提言
2011（平成 23）年	国際舞台芸術ミーティング TPAM、横浜初開催 鶴見区民文化センターサルビアホール開館 文化観光局設置
2012（平成 24）年	横浜芸術アクション事業「Dance Dance Dance @yokohama 2012」野外バレエで開幕 横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方公表
2013（平成 25）年	戸塚区民文化センターさくらプラザ開館 緑区民文化センターみどりアートパーク開館 横浜芸術アクション事業「横浜音祭り 2013」開幕 横浜市が東アジア文化都市の国内最初の都市に選定される
2014（平成 26）年	市民ギャラリー（旧いせやま会館）移転リニューアル
2015（平成 27）年	創造都市推進部と文化振興部を、文化芸術創造都市推進部と文化プログラム推進部に再編
2018（平成 30）年	関内ホールが大規模改修を終えてリニューアル
2019（令和元）年	BankART station オープン
2020（令和 2）年	緊急事態宣言で文化施設一斉休館 ぴあアリーナ MM オープン
2022（令和 4）年	横浜みなとみらいホールが大規模改修を終えてリニューアル 瀬谷区民文化センターあじさいプラザ開館
2023（令和 5）年	Kアリーナ横浜オープン
2024（令和 6）年	港北区民文化センターミズキホール開館 横浜美術館が大規模改修を終えてリニューアル
2025（令和 7）年	都筑区民文化センターボッシュホール開館

※主要民間施設についても追記

横浜未来の文化ビジョン 資料編

令和8年6月

横浜市にぎわいスポーツ文化局文化振興課

〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10

電話：045-671-3714 FAX：045-663-5606

Email：nw-vision@city.yokohama.lg.jp